

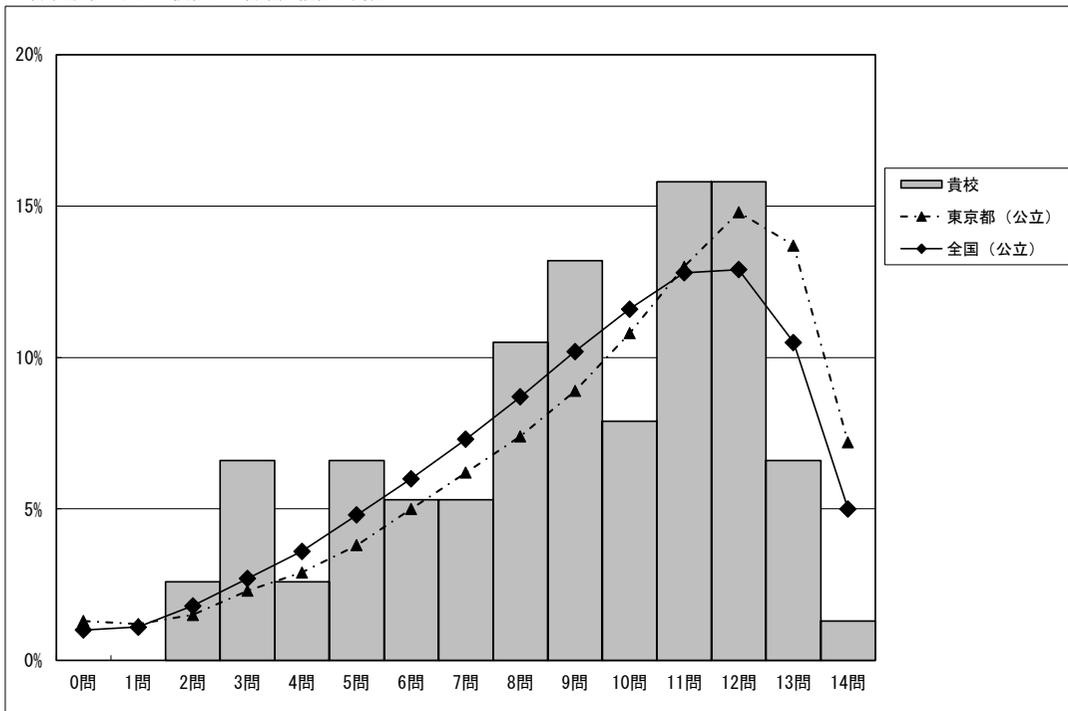
調査結果概況 [国語]

江戸川区立二之江第二小学校ー児童

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。
 ※ただし、4月19日に調査を実施していない学校については、4月20日以降5月20日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
江戸川区立二之江第二小学校	76	8.9 / 14	63	9.0	3.1
東京都 (公立)	92,237	9.6 / 14	69	10.0	3.3
全国 (公立)	965,308	9.2 / 14	65.6	10.0	3.3

正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：割合)



正答数集計値				
正答数	児童数	割合 (%)		
	本校	本校	東京都 (公立)	全国 (公立)
14問	1	1.3	7.2	5.0
13問	5	6.6	13.7	10.5
12問	12	15.8	14.8	12.9
△ 11問	12	15.8	13.0	12.8
◇ 10問	6	7.9	10.8	11.6
◇ 9問	10	13.2	8.9	10.2
▽ 8問	8	10.5	7.4	8.7
▽ 7問	4	5.3	6.2	7.3
6問	4	5.3	5.0	6.0
5問	5	6.6	3.8	4.8
4問	2	2.6	2.9	3.6
3問	5	6.6	2.3	2.7
2問	2	2.6	1.5	1.8
1問	0	0.0	1.2	1.1
0問	0	0.0	1.3	1.0

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴校	東京都 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	11.0問	12.0問	12.0問
◇ 第2四分位	9.0問	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	7.0問	8.0問	7.0問

上表の通り、令和4年度の平均正答率は、東京都平均から6ポイント、全国平均から2.6ポイント下回っている。観点別にみると、「知識・理解」は、東京都とほぼ同等であるが、「思考・判断・表現」における「話すこと・聞くこと」で東京都平均正答率から落ち込みが8.6ポイントみられた。

授業実践のなかで、自分の考えや感じたことを伝えあったり、発表したりする機会を増やすなど、日常的に「話す・聞く」活動に取り組みせていく。「話す・聞く」活動の基本にはあるのは、児童に、そのテーマについて「話したい!」「聞き

たい!」と強く感じさせることである。児童にとって興味・関心のあるテーマ、およびその投げ方について、研究を重ねていく。

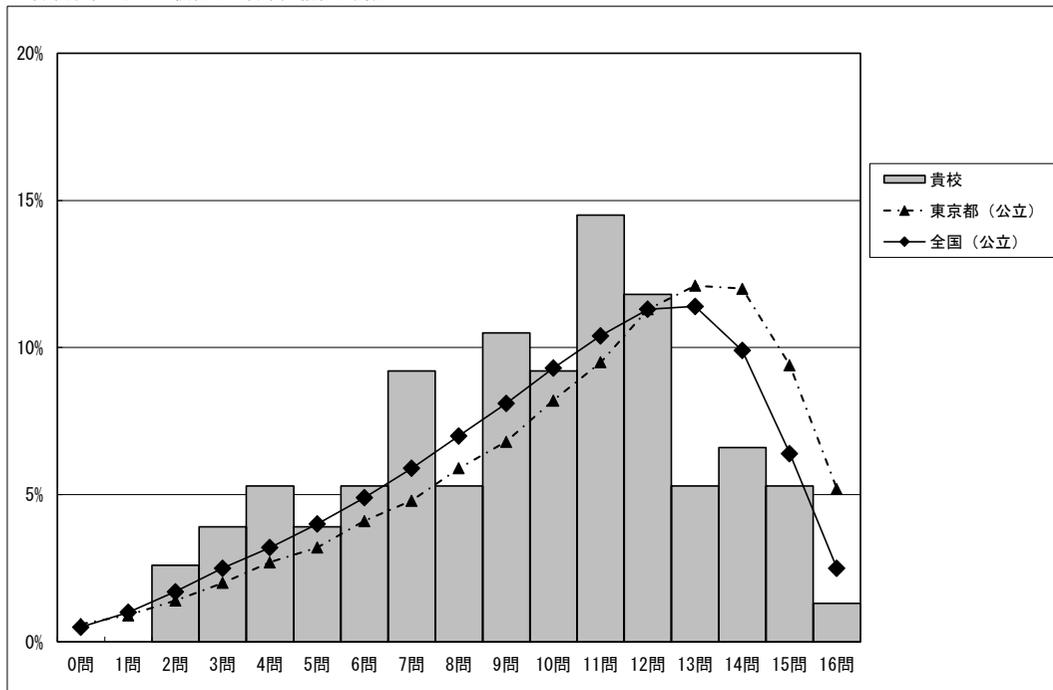
令和4年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [算数]
 江戸川区立二之江第二小学校ー児童

小学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。
 ※ただし、4月19日に調査を実施していない学校については、4月20日以降5月20日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
江戸川区立二之江第二小学校	76	9.4 / 16	59	10.0	3.5
東京都 (公立)	92,266	10.7 / 16	67	12.0	3.7
全国 (公立)	965,431	10.1 / 16	63.2	11.0	3.6

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)



正答数集計値				
正答数	児童数	割合 (%)		
	本校	本校	東京都 (公立)	全国 (公立)
16問	1	1.3	5.2	2.5
15問	4	5.3	9.4	6.4
14問	5	6.6	12.0	9.9
13問	4	5.3	12.1	11.4
△ 12問	9	11.8	11.3	11.3
11問	11	14.5	9.5	10.4
◇ 10問	7	9.2	8.2	9.3
9問	8	10.5	6.8	8.1
▽ 8問	4	5.3	5.9	7.0
7問	7	9.2	4.8	5.9
6問	4	5.3	4.1	4.9
5問	3	3.9	3.2	4.0
4問	4	5.3	2.7	3.2
3問	3	3.9	2.0	2.5
2問	2	2.6	1.4	1.7
1問	0	0.0	0.9	1.0
0問	0	0.0	0.6	0.5

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴校	東京都 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	12.0問	14.0問	13.0問
◇ 第2四分位	10.0問	12.0問	11.0問
▽ 第1四分位	7.0問	8.0問	8.0問

上表の通り、令和4年度の平均正答率は、東京都平均から8ポイント、全国平均から4.2ポイント下回っている。観点別にみると、「思考・判断・表現」が東京都平均正答率から落ち込みが9.2ポイントみられた。習熟度別算数少人数のなかで、より問題解決型の実践に力を入れていく。課題に対して、自力解決・話し合い・共有の取組という流れを授業のスタンダードとし、校内で共通実践していく。また、個別に支援が必要な児童については、課題の数値を簡略化したり、ヒントカードを提示したりして、課題解決のプロセスをより細分化して支援を行っていく。

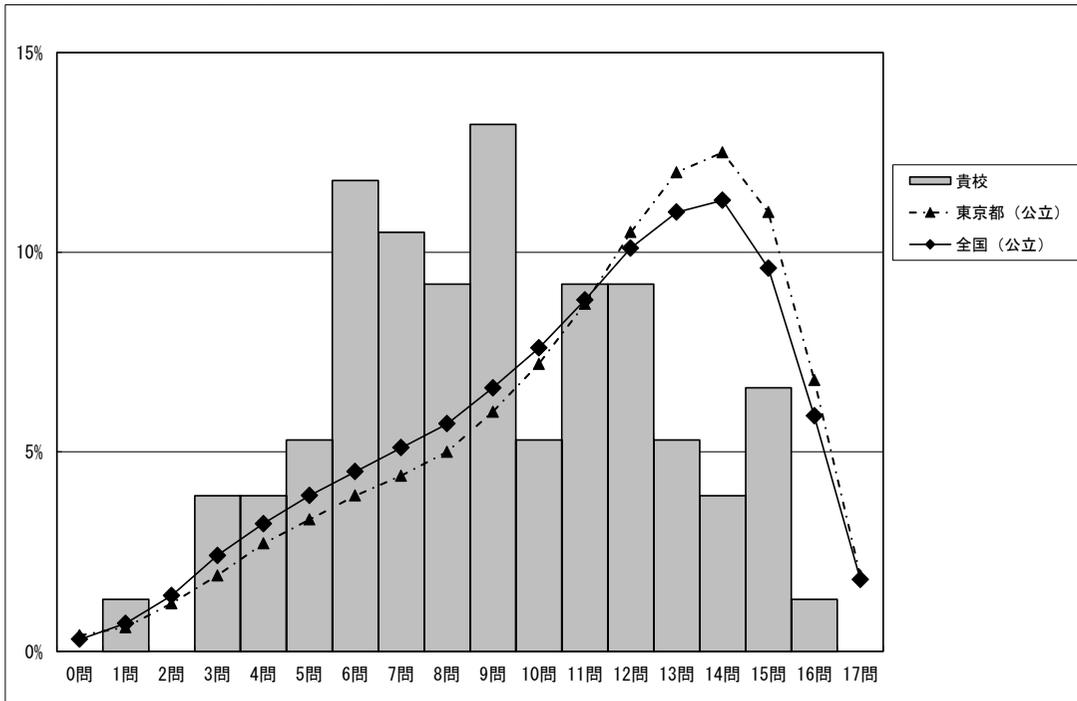
調査結果概況 [理科]

江戸川区立二之江第二小学校—児童

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。
 ※ただし、4月19日に調査を実施していない学校については、4月20日以降5月20日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
江戸川区立二之江第二小学校	76	9.0 / 17	53	9.0	3.4
東京都 (公立)	92,293	11.1 / 17	65	12.0	3.8
全国 (公立)	965,761	10.8 / 17	63.3	11.0	3.8

正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：割合)



正答数集計値				
正答数	児童数	割合 (%)		
	本校	本校	東京都 (公立)	全国 (公立)
17問	0	0.0	1.9	1.8
16問	1	1.3	6.8	5.9
15問	5	6.6	11.0	9.6
14問	3	3.9	12.5	11.3
13問	4	5.3	12.0	11.0
△ 12問	7	9.2	10.5	10.1
11問	7	9.2	8.7	8.8
10問	4	5.3	7.2	7.6
◇ 9問	10	13.2	6.0	6.6
8問	7	9.2	5.0	5.7
7問	8	10.5	4.4	5.1
▽ 6問	9	11.8	3.9	4.5
5問	4	5.3	3.3	3.9
4問	3	3.9	2.7	3.2
3問	3	3.9	1.9	2.4
2問	0	0.0	1.2	1.4
1問	1	1.3	0.6	0.7
0問	0	0.0	0.4	0.3

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴校	東京都 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	12.0問	14.0問	14.0問
◇ 第2四分位	9.0問	12.0問	11.0問
▽ 第1四分位	6.0問	9.0問	8.0問

上表の通り、令和3年度の平均正答率は、東京都平均から12ポイント、全国平均から10.3ポイント下回っている。観点別にみても「知識・理解」で13.1ポイント、「思考・判断・表現」では東京都平均正答率から落ち込みが12.3ポイントみられた。東京都および全国と、本校の平均正答率に大きな開きが見られる実態があらわとなった。児童が、自然の事象・現象に触れることで課題を見つけ、「原因と結果」、「部分と全体」、「定性と定量」といった「理科の見方」および、「比較」「関係付け」「条件制御」「多面的に考えること」といった「理科の考え方」を働かせながら、問題解決をしていく活動を積み上げていく。そうした授業実践を進められ

るよう研究・研修を深めていく。